



関町小通信

平成28年3月1日
練馬区立関町小学校
学校だより 3月号

3.11 を忘れない

校長 福岡 勤

◇が 効 効 効… グラ グラ グラ… ヽッ! ヽッ! ヽッ!…。

比較的大きな揺れに襲われるたび、私は「ついに、首都圏直下型地震、それとも東海地震が来たか。」と身を固くしてしまいます。

保護者・地域の方の中には東日本大震災や阪神・淡路大震災等の大きな地震により、被災されたり、東京で感じた以上の揺れを体感されたりした方もいらっしゃるのだと思います。今、日本列島は活動期に入っており、各地で火山の噴火や地震が頻発しています。東京もこの21世紀中に大きな揺れに襲われることは間違いないと言われています。そのXデーに備え、各自治体、学校、企業、家庭等は防災・減災の措置を講じておかなばなりません。皆様のお宅はいかがでしょう。大災害となったとき、避難拠点が開設・運用されるまでの72時間と言われる時間を生き抜く防災グッズ、非常食、飲料水の用意や家具の転倒防止策は万全でしょうか？

学校では、「自分の身は自分で守る」を合い言葉に月1回訓練しております。万が一職場等で地震に遭遇するなど、離ればなれのシチュエーションでは、なかなか冷静になることは難しいとは思いますが、「うちの子はなんとか無事に避難している」と思うことが大切です。同時にお子さんも「私の家族も無事であるはず。」と、大火災が起きているような危険な場所に家族を探しにいたり、過度に家族の安否を心配したりすることのないように御家族の間でも日頃から「自分の身は自分で守るから。」と確認し合っていただきたいと思います。

また、3.11の反省から私たち大人もむやみに自宅に戻ろうと移動することなく、会社等の安全な場所でしばらく避難するような取り決めがなさ

れ始めております。お子さんを含め、家族の安否は非常に気になる場所ですが、今の内から災害伝言ダイヤル（#171）などによる連絡方法を確認しておくことをお勧めします。

なお、相反するようで申し訳ございませんが、練馬区ではお子さんが在籍している時間帯に震度5弱以上の地震が発生した場合は、原則として被害の有無にかかわらず「引き渡し」となります。保護者が迎えにいらっしゃるまでお子さんは避難拠点となる学校で保護いたします。

◇昨年、「もしも一人で家にいたときに大きな地震が起き、周りが火の海になったどうしますか？」と子供たちに聞いたことがあります。多くの子供は「家族（のケータイ）に電話する。」と答えました。「電話はつながらないよ。」「つながったとしても都心の会社に勤めている家族は助けに来られないよ。」「助けに来られる所にいたとしてもわざわざ危険なところに家族を呼ぶのかい?」「ではどうする?」すると「大人に助けを求める。」「誰かが気付いてくれるように大きな声で泣く。」うーん…。幸運にも泣き声に気付いた親切な大人がいればよいのですが、周辺が相当混乱している中、マンションの一室で泣いていても命は助からないでしょう。このような万が一のために、事前に避難行動をシミュレーションし、学校以外の広域避難場所等を理解しておくことが、お子さんが生き抜く上での大きな力となります。

学校では、「交通安全」・「生活安全」・「災害安全」に関する安全教育の指導により、危険を察知し、いかなるシチュエーションにおいても生き抜くことができる「自分の身を守れる子供」の育成に取り組んでおります。